

日本語用論学会第 27 回大会（2024 年 11 月 30 日～12 月 1 日）大会発表賞について

受賞者

白石暖哉

研究発表

現代日本語における文末表現「V ヨウニ」が表す「命令」と「祈願」

受賞理由

本発表は、現代日本語の「V ヨウニ」形式が、「年末までに退去するように」のような「命令」と、「早くよくなりますように」のような「祈願」の 2 つの意味をあらわしうるが、「祈願」の意味の場合は専ら敬体の「ますように」の形で現れるということを定量的に検証したうえで、語用論的観点からの説明を試みたものである。定量的分析は、BCCWJ コーパスからの例を分類したうえでコロストラクション分析を行い、ピアソン残差の比較により、祈願の意味の「V ヨウニ」は「ます」との誘引度が優位に強いことを示した。考察では、祈願の発話の聞き手が誰であるのかという問題と、非従属化の FTA ストラテジーとしての働きを論じ、「V マスヨウニ」の構文としての定着と「マス」の丁寧体としての機能の希薄化を指摘した。

発表は先行研究も十分に踏まえたうえで分析を提示し、考察も複数の観点から行われていた。発表時間に対して準備した内容がやや多すぎた点、また、聴衆の理解を確保できていなかった点に懸念はあるが、定量的分析と語用論的考察の両方がこの研究にとって必要であるという発表者の信念を体現した結果と考えることもでき、熱意の現れとして評価できる。質問は時間内に収まらないほど多く出され、聴衆の関心を強くひきつけたことが伺えた。全ての質問に問題なく回答できたわけではなく、時には言葉に詰まる場面もあったが、質問に対して真摯に対応し、偽らない誠実な態度として好感がもてた。定量的な調査だけでなく、ポライトネス理論との関連を論じるという研究の取り組みは、これからの語用論研究がとりうる可能性の一つとして大きな将来性を感じさせるものである。

以上の理由により、白石暖哉氏を本学会第 27 回大会の大会発表賞の受賞者に決定する。

日本語用論学会 会長 秦かおり
大会発表委員長 早野薫
大会発表賞小委員会委員長 遠藤智子